

【報道関係各位】

2020年12月18日
三谷産業株式会社

英国半導体設計大手 Arm Limited 日本法人 内海社長と対談
筑波大学講義に当社社長がパネリストとして参加しました
～『システムと情報科学の今後』についてディスカッション～

本年12月17日に開講された筑波大学 情報学群の講義『システムと情報科学』の最終回に、三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市、以下 三谷産業）代表取締役社長の三谷忠照がパネリストとして参加しました。

■ 講義（パネルディスカッション）について

『システムと情報科学の今後』と題された今回の講義は、情報システムに関する将来への提言をディスカッションするものであり、オンライン形式で開催されました。パネリストには英国半導体設計大手 Arm Limited の日本法人であるアーム株式会社代表取締役社長の内海弦氏のご参加、またファシリテーターは筑波大学 システム情報系 准教授の山際伸一氏が務められました。



パネルディスカッションの様子

（左上 パネリスト）当社社長 三谷忠照

（右上 パネリスト）アーム株式会社 代表取締役社長 内海弦氏

（下 ファシリテーター）筑波大学 システム情報系 准教授 山際伸一氏

山際氏から提示された『未来への5つの問い』それぞれに対しパネリストが見解を述べ、また受講生から随時寄せられる意見や質問に応じる形で講義がすすみました。

短期間のうちに目まぐるしく変化する社会で求められる人物像や素養については、内海氏は「サブカルチャーや雑学、ITやデータサイエンス、地球環境などにも知見がある方が企業人として成功する」とお話しされ、三谷は「デザインを考えられるエンジニア、エンジニアリングを考えられるデザイナー、人間の習性や心理をうまく突いたものを創っていける方が理想」と話しました。

また新型コロナウイルス感染症の影響が続く中においても情報システム分野を進歩させる大切な要素として、内海氏は「オンラインチャットがコミュニケーションの中心となるなか、リアルでは容易に行われていた自然な会話から創造性ある議論ができるかどうか」とお話しされ、三谷は「今まで放っておかれた事象が見直されるようになったが、仮に新型コロナウイルスが終息しても需要を生み出せるソリューションが創出できるかどうか」と話しました。

最後に受講生に対しては、『高齢化社会の行きつく先は？』『つぎのクラウドサービスはなに？』既存のクラウドサービスを組み合わせ、社会問題を解決する新しい情報システムを考えなさい』という2つの課題が与えられ、講義が終了しました。

三谷産業では本講義の他にも、北陸地区の大学・高校での寄附講義の実施やインターンシップの受け入れなどを行っています。当社は今後も、次代を担う若手人材の育成に積極的に取り組んでまいります。

【三谷産業グループについて】 <https://www.mitani.co.jp/>

石川県金沢市で創業して92年、ベトナムで創業して26年の複合商社です。北陸、首都圏、ベトナムを地盤に、化学品／情報システム／樹脂・エレクトロニクス／空調設備工事／住宅設備機器／エネルギーの6セグメントで事業を展開しています。商社でありながら、時にメーカーとして、また時にコンサルタントとして、お客様にとっての最適を追求するとともに、「創業90年を越えるベンチャー企業」として更なる進化へと挑戦しています。

2020年3月期：連結売上高 77,595 百万円／連結従業員数 3,355 名

未来への5つの問い

1. 市場が求める情報システム技術者像とは？
2. 将来の情報システム技術者に必要な素養とは？
3. 「電子立国 日本」の再来のために必要なことは？
4. アフターコロナで成功する情報システムとは？
5. 情報システムは人を超越することが出来るのか？

講義中に提示された「未来への5つの問い」

<本件に関するお問い合わせ先>

三谷産業株式会社 コーポレート本部 経営企画部 PR 企画課
TEL：03-3514-6003（担当：宮城）